

「小 論 文」採点基準説明書

1. 出題のねらい

この問題では、若くしてライ(ハンセン病)を患い手足の感覚や視力まで失った女性の語りを読み、そこに登場する「笑い」の意味を問うことで、困難な状況にあってよく生きるとはどのようなことなのか、それには何が必要なのかを受験生に深く考えさせることをねらっている。この問題を通して、**(1)他者の語りを受けとめ、その固有の文脈のなかで意味を理解してゆく力**と**(2)人間の感情や心理に対する豊かな関心にもとづき自らの思考を深めてゆく力**の2点を評価したい。これらの資質は、今後、予防医療の進展や慢性疾患の増加などによって人びとが病気と向き合う時間がさらにのびることが予想されるなかで、医療者にとってもますます重要になると考えられる。

2. アドミッション・ポリシーとの対応

[対応するアドミッション・ポリシー]

1. 十分な基礎学力を持ち、自ら問題を発見し解決しようとする意欲のある人
→一人の女性の語りから人間の生き方につながる問題を見出すことができる。
2. 基本的な倫理観と思いやりの心を持ち、利他的に考えることができる人
→女性の物語や境遇に即して言葉の意味を考え、共感的に受けとめることができる。
3. 礼節を重んじながら自らの考えを他者に伝えるとともに、他者の多様な意見を理解しようとする協調性と柔軟性に富む人
→女性の語りを丁寧に読み取り、そこから考えたことをわかりやすく伝えることができる。
4. 多様な文化、変容する社会の中での自らの使命を理解しようとする人
→自らとは異なる身体状況や社会的境遇にある者の言葉から、人がよりよく生きるための手がかりを探りだすことができる。